

令和4年12月19日
全員協議会資料

協働のまちづくり推進特別委員会 行政視察レポート

＊参加委員＊

西田清久・上野茂・村木勝也・村武まゆみ
柳楽真智子・岡本正友・芦谷英夫・川神裕司

①視察日時・視察先

令和4年11月7日（月）～8日（火）

長崎県佐世保市

佐賀県小城市議会

②視察調査項目

協働のまちづくりを実践から学ぶ

③視察目的

市民参加型の協働を実践している先進地を視察するとともに関係者と意見交換することにより、浜田市の協働のまちづくりの推進に反映させる。

④視察先の概要

○佐世保市 人口は約24万人、面積は426平方キロ
軍港都市と発展、ハウステンボスや九十九島エ
リアといった観光資源を保有。

議員は、条例定数33人(現員数31人)

男性29人・女性2人

- ・常任委員会(総務、都市整備、文教厚生、
企業経済)

- ・特別委員会(基地政策、石木ダム建設促進、

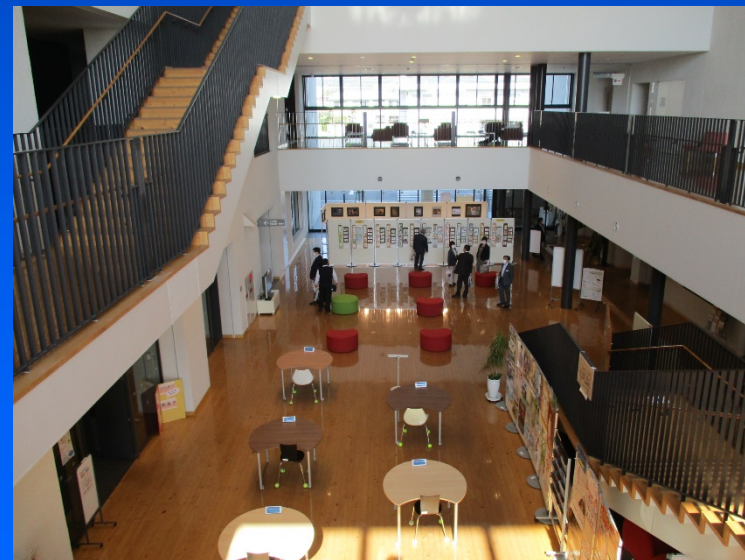
特定複合観光施設(IR)推進、
交通体系整備)



選定理由
浜田市と同じく県
立大学がある。

○小城市 人口は約4万5千人、面積は96平方キロ
平成17年3月に小城郡4町が合併し誕生
議員は、条例定数20人 男性15人・女性5人
・常任委員会(総務、文教厚生、産業建設)
・特別委員会(議会広報編集、議会ICT化、
令和2年7月豪雨災害)

選定理由
具体的な話し合い
を通しての協働の
実績がある。



⑤視察内容

視察先の取組・事業概要

佐世保市(7日)

《相浦未来まちパートナーズ関係者との意見交換会》

相手方: 浦芳郎代表理事、車相龍理事(長崎県立大学教授)
石田聖理事(同大学准教授)、芳賀普隆会員(同大学講師)
田山藤丸事務局(佐世保市議会議員)
豊田、松本(学生会員)

* 相浦未来まちパートナーズとは・・・

設立総会: 令和4年7月5日

設立趣旨: 地域の資源、可能性を再確認し、
未来志向の新たなまちづくりを提起。
これを公民連携で進めるために設立。
今後、法人化を目指す。

■取組骨子

- ・相浦地域の将来構想の策定、ガイドラインの具体化を図ること
- ・まちづくりに関する調査分析・企画調整・情報発信を行うこと
- ・まちづくりに関する財源の確保、担い手の育成を行うこと



■令和4年度活動計画

- ・キックオフイベント、パイロット事業を企画
- ・相浦ビジョン策定プロジェクトの推進
- ・パートナーズの増加と認知度向上への取組

《させぼ市民活動交流プラザ視察》

相手方：佐世保市コミュニティ・協働推進課 大塚庸示課長補佐

■施設の概況

廃校を活用した施設（平成17年4月開設）

常勤職員3名 その他3名雇用

～「市民協働推進計画」に基づき、市民と市民、市民と行政との協働の推進を図るとともに、市民協働の担い手の一つであるNPO法人やボランティア団体等を支援するための活動拠点として設置

暫定的な廃校利用であり、いつまで利用できるかわからない状況



■活動状況

- 会議室・機材（プロジェクター、PCなど）・印刷機器の貸出
- 登録団体（130団体）の情報発信
- 補助金等の情報提供
- まちづくりレシピ教室（登録団体が主催する講座の募集・広報⇒町内会等各種団体が申し込む⇒主催団体が出前形式で開催）
- させぼNPO・ボランティア支援ネット（HP）の管理
（平成17年4月開設・24年4月リニューアル）
 - ・・・活動の紹介・情報発信・告知・行政、民間情報の提供

《万津6区見学》

～佐世保市中心部にありながら新旧の要素が混在するエリア

空き家店舗の利活用を視察

～大学生参画して空き店舗をショップに…

大学生と地域住民の話し合いの拠点の創設



“僕たちが住みたい「みなとまち」”をつくる「RE PORT(リポート)」事業のリーダーは、佐世保市職員中尾さん(39歳)
市職員(A面)として、「RE PORT(リポート)」代表(B面)として、日々活動しておられます。

小城市(8日)

《小城市議会(リビングラボプロジェクト)》

相手方:小城市総合戦略課長、副課長

地域との関わりが希薄な住民の割合が高い



市民共創活動の環境づくりが困難



市民主体のまちづくりへの転換は不可欠！！

地域のいろんな立場の多様な方が参加する枠組み
市民が自分事として考え、自発的に取り組める仕組み
市民が関わりを継続できるような手法



リビングラボの手法で市民共創の土壌を作る！！

■リビングラボとは・・・

新しいサービスや製品開発において、ユーザーや市民が参加し、企画から改善に至るまで共創する手法

■事業の流れ・・・

- ①アイデアの発散 ②アイデアの収束
- ③試食・試行 ④評価・改善

■取組の背景

平成30年3月：小城スマートIC開通～

平成30年12月：「高速道路を活用した地方創生等に関するプロジェクト連携協定」締結



（小城市・NEXCO西日本・福岡地域戦略推進協議会）

高速道路を活用した魅力ある動線・拠点づくり⇒「豊かで活力ある地域づくり」の実現を目指す！

第1期リビングラボ

【テーマ】

小城を知ってもらうきっかけとなる特産品・
お土産を開発しよう。

【実施時期】令和元年8月～令和2年8月（全5回実施）

【募集方法】広報、ホームページを活用（18人参加）

【概 要】

企画・開発から商品の評価・改善を地元住民と、企業などと
共創する。

完成した商品をきっかけとした来店や情報発信を通じて、
関係人口・交流人口の増加を促進する。

第2期リビングラボ

【テーマ】

市民のおもてなしで魅せる自転車を活用した周遊体験

【実施時期】令和3年11月～現在進行中

【参加者】 23人

市民(会社員、自営業者、地域おこし協力隊等)

【概 要】

「また来たくなるやさしい小城」を実現するために、自転車を活用した観光振興を市民と共創する。

点在する文化・観光資源を掘り起こし、魅力的な観光コンテンツとして磨き上げる。

第1期リビングラボの成果

- ・リビングラボにおける、市民と企業(4社)の共創により、以下の4商品を開発
- ・おっ!ぎラムネ、トラキチ君シェイク、ogi cubeの3商品が販売開始
- ・**取り組み内容や商品は、新聞、TV等20以上のメディア媒体に掲載**
- ・**参加市民による商品PR(情報発信)、POP等販促物の作成(自発の動き)**

企業と市民が共創する小城市リビングラボから生まれた4つのお土産品

佐賀冷凍食品(株)チーム
「おぎにり」



- ✓ 小城の原料や小城にちなんだ素材3種のおにぎり: 梧竹ごもく、牛尾梅、佐賀牛すき焼き(開発中)

(株)友樹飲料チーム
「小城市VR体感ラムネ おっ!ぎ」



- ✓ 小城市の四季や観光地をVR風に体験できるラムネ

竹下製菓(株)チーム
「トラキチ君シェイク」



- ✓ トラキチ君アイスを模したバナナシェイク
- ✓ カップにチョコでトラ柄を表現

みつばや小城羊羹チーム
「ogi cube」



- ✓ サイコロ状の7色羊羹
- ✓ 今までの羊羹にはない、新感覚の味のラインナップ

※「おぎにり」は商品化に向け開発中。

小城市提供資料

リビングラボのここがポイント

- ・ 「市民主体のまちづくり」の実現には、**市民の自発的な動き**が不可欠
- ・ 「**達成感**」「**充実感**」「**楽しさ**」を大いに感じてもらうと共に「**具体的な取り組み方**」「**企画・開発の難しさ**」「**実現**」等も経験してもらいたい。
- ・ 第1期 「試作品(夢)」で終わることなく「商品(実現)」として販売する段階までやりきることを重視
- ・ 第2期 「周遊コース」などを作って終わるのではなく、自発的な拡がりにつながる取組としたい。

委員の所感①

今回の行政視察は、大変中身の濃い視察であった。情報だけなら、ネットでも入手できる。現地へ行くことに意義があると思えるような視察を今後も計画しないといけないと感じた。

小城市には、行政に「戦略課」があった。前向きな戦略的な動きをされているのに着目した。

やはり、協働のまちづくりは人づくりに尽きる。

佐世保市では、様々なジャンルの人が、違う活動をしながら、まちづくりに対する熱い思いをもって集まっていた。浜田市でも参考にできることが多いと感じた。

地元旭町に置き換えてみると、資源は豊富であるが生かされていない。

人口減少ではあるが、誰か知恵を貸してくれたら一緒にできることもあると思った。

視察先では、学生が地域を盛り上げ、資源を生かすような取組をしていた。浜田市にも県立大学があり、学生は地域に出向いているので、そのあたりを参考にしたい。

委員の所感②

現地へ行って関係者と話を聞くことで思いも伝わる。
リモートという方法もあるが、現地へ行っての視察は大事であると感じた。

現地視察では、オンラインでは伝わらない空気感があった。人と人がつながるには、実際に会って時間を共有する作業が必要であると感じた。

まちづくりには、地域のキーマンが必要であり、その人材をどうやってつくり育てるかが一番大事なポイントである。それは皆わかっているが、なかなかできない。そこを、視察先では、良い出会いがあり、よい形で広がりを見せていた。

住民と行政と大学、この三者の連携について、視察先で学んだことから、後押しができるのではと感じた。

小城市のリビングラボについては、ものづくりや商品開発に市民が積極的に参加している形を、浜田市が商品開発などする際に、導入できるのではと思った。

委員の所感③

これらの事例は、大学などの資源を活かす、その中から人材の発掘と活躍の場づくりなどの示唆となり、それを具体的に動かす施策の動員、拠点の整備、市職員の活用と活躍の場づくりに参考となる。国、県、他機関などとの連携こそ、市がやるべきでことあり、NEXCO西日本ほかとの実効ある連携の仕組みづくりは参考とすべきである。

浜田市にとって、協働のまちづくりは、自治区制度に替わるものであるしたがって、全精力をつぎ込んで市全体で取り組む。

視察に行くことで、熱意を肌で感じる事ができた。

今後、浜田市では、まちづくりセンターが核となるため、その機能強化が必要であるが、すぐには難しいと思う。

今回の視察の佐世保市と長崎県立大学との連携を参考に、浜田市でも、もう少し、県立大学にまちづくりに関わっていただく仕組みができないものかと感じた。

委員の所感④

大学があるまちとして、新しいカタチの関わりのある団体を視察でき、とても参考となった。

この団体のリーダーが大学教授であり、地域政策学部がまちをフィールドとして取り組む活動は、今後、浜田市にも期待できるものと感じた。

大学からも話があったが、既存の「地縁」組織との関係性がまだまだであるところが気になり、そこをカバーしていくことが議員の役割かなと思った。

この度の視察で得たことは、「関わること」の大切さである。

佐世保市の相浦まちパートナーズ事業で、「これまでは、大学は、子どもを育てて送り出す機関であったが、今後は、若者を地域に残す器となるべき」との発言があった。

浜田市の県立大学でも地域と関わっていこうという動きがあるので、視察で得たことを執行部に伝えることで、連携の図り方の一助になるのではと思う。

視察を通して、市民を巻き込む仕掛けが大事であると感じた。

⑥委員会の考察

■佐世保市(全般)

○企業、大学、まちづくり団体、市民、NPO及び行政がそれぞれ主体として関わる制度ができている。

○世代を担う若者やあらゆる世代の男女等多様な市民が参画できる環境づくりが制度化されている。

○住民の思いや願いをデザインして次世代に紡ぐ持続可能なまちづくりがみられた。(浜田市の「協働のまちづくり」は、まちづくりセンターやまちづくりコーディネーターに任せている傾向にある?)

○空き家の利活用やまちの再編等、地域内にある、あらゆる資源を活用して戦略的に地域経済を好循環させる仕組みが方々に見られた。

■小城市(リビングラボ事業)

○商品開発に市民の声を取り入れるリビングラボ事業は、住民参加の新たな手法として参考になった。

○協働の取組は、共に創り上げ、検証し、改善を行うことが重要であると感じた。

研修の評価

○現地での行政視察は、訪問先のその人の思いを肌で感じて聴ける。
(オンラインでは、感じ取れない。) →ハートの温度が伝わる。(感じる)

○その地域における熱い思いとその地の「地域資源」を活かした取組
が視察できた。

○今回の視察において、改めて「まちづくり」は「ひとづくり」であると実感した。

○地域にあるモノを同じ方向、同じベクトルに向かって活かしていくことが重要 →次世代を見据えて・・・

○今あるモノを見つめ直し、どう活かすのか。活かすためには話し合う
拠点がある。新しい建物でなくていい。ただし、キーマンと共通の方向性(デザイン、青写真、計画等)が必要である。

■研修の活かし方

○今後、当委員会では、今回の視察で得たことを参考に、地域政策学部のある大学を有するまちとして、大学の資源を活かしつつ、人づくり(人材発掘・人材育成)に視点をおき、市民の参画を促す手法を検討したいと考える。

○視察内容を執行部と共有し、活用できる部分は積極的に取り入れてもらいたい。

○これまで、委員会で取り組んできたことに、この視察での成果をプラスして、各委員が、自身の考えをまとめる。⇒次のステップに！



ご清聴ありがとう
ございました。